

聖人の心

ニャーネーシュワル・マハーラージの生涯と教え

人間の歴史を通して、精神の師は、私たち自身の存在の中に神性の光を目覚めさせるためにこの世に現れてきました。自らの教えと模範を通して、彼らはすべての生きとし生けるものの中にある神の存在に私たちの目を開かせます。そして、私たちもまた、その光を運ぶ者であり得るという認識に導きます。そしてその光は、私たちがその中で生きる方法を通して、この世界と共有することができます。

ニャーネーシュワル・マハーラージは、インドのマハーラーシュトラ州に 13 世紀に住んでいた、そのような存在でした。

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダは、この偉大な魂について言いました。

ニャーネーシュワルは、喜びとインスピレーションであふれんばかりの光り輝く太陽のようで、彼はさらに多くの太陽を生み出すことだけを望んでいます。¹

これらの言葉は、『シュリー・バガヴァッド・ギーター』についてのニャーネーシュワルの偉大な解説書の、スワーミ・クリッパーナンダによる翻訳の冒頭のグルマーイの祝福の中にありました。

ニャーネーシュワルの名前は、「知識の神」を意味します。彼はわずか 20 年余りしか生きてはいませんでした。ニャーネーシュワルは、インドの最も優れた精神性についての注釈書の

¹スワーミ・クリッパーナンダ著『ニャーネーシュワルについて-ニャーネーシュワルのギーター』へのグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダの「祝辞」（ニューヨーク州サウス・フォールスバーグ、SYDA ファウンデーション、1999 年版）

一つとして考えられる『ニャーネーシュワリー』と、さらに他の二つの重要な著作、『アムリターヌバヴァ』(精神の道の神聖な特質についての詩節)、および、『チャングデーヴ・パサシュティ』(アドヴァイタ・ヴェーダ哲学の本質を伝えると言われる 65 の詩節)も著しました。そうする中で、彼はマラーティー語を、尊敬される文学的および哲学的な言語として確立しました。ニャーネーシュワルの時代以前は、サンスクリット語のみがマハーラーシュトラ州の学者や祭司によって使われていました。

ニャーネーシュワルは、マハーラーシュトラ州全体に広まった献身的な崇拜の波の基礎を築く上で主要な役割を果たしました。もう一人の若い詩聖、ナームデーヴと共に、彼は、インド中央部で、バクティ運動の一部であるヴァールカリーの伝統の確立に貢献しました。ヴァールカリーとはヴィシュヌ神を崇拜する者たちで、彼らは神はあらゆる場所に存在し、また、カーストや身分にかかわらず、誰もが最高の尊敬に値するという理解に従って生きます。今日に至るまで、何万人ものヴァールカリーは、ニャーネーシュワルが確立したこの実践を継続し、パンドルプールの街を毎年巡礼しています。彼らはそこでヴィッタール——ムールティ、すなわち活性化された神聖な像としての神の自発的な顕現——という姿のヴィシュヌ神をたたえます。

それに加えて、聖人ニャーネーシュワルは詩人でした。彼自身が創作した軽快なオーヴィーの韻律で、ニャーネーシュワルは何百ものアバンガというマラーティー語の献身的な歌を作りました。それらの歌は、弾みのあるシンコペーションのリズムや覚えやすいメロディーと日常的な言葉で、最も高い精神的な知識を伝えるものでした。それらは、マハーラーシュトラ州の教育のない人々でさえ覚えることができ、彼らが仕事をしたり道を歩きながら歌うことのできる歌でした。

ニャーネーシュワルの歌と書かれた教えの美しさと英知は、何世紀にもわたって、エクナート・マハーラージやトゥカーラーム・マハーラージなど、その他の偉大な精神の師たちへのインス

ピレーションとしての役目を果たしてきました。最近では、グルマーイとバーバ・ムクターナンダが、しばしば彼のアバンガを歌い、その講話や著作の中で彼の言葉を引用してきました。

ニャーネーシュワルの短い生涯の物語は、奇跡的な慈悲の行為が豊富で、偉大な存在の本質を描写し、何世代もの探究者たちに啓発を与えてきました。

ニャーネーシュワルの初期の人生

ニャーネーシュワルの父親は、アランディの近くのアペガオンという村に住んでいた熱心な若いブラーミンで、名前をヴィッタールパントウといいました。彼はサンニャーサの誓いを立ててスワミになりたいと切望しましたが、まず所帯持ちとしての生活をして家族を養うよう忠告されていました。彼は高潔な若い女性、ラクマーバーイーと結婚し、彼女はアランディの町の役人の娘でした。何年かが過ぎても、ラクマーバーイーには子どもが生まれませんでした。とうとう、ヴィッタールパントウは、自分のもとの願いを裏切ってしまったと感じていたので、妻の許可をもらって彼女の元を去り、サンニャーシンとなりました。

彼は北部のベナレスに行き、ラーマーナンダという名前のグルからサンニャーシンの授戒を受けました。ヴィッタールパントウはグルのアーシュラムに住んでいた数年の間ずっと、彼が妻の元を出てきたことを師には決して伝えませんでした。ラーマーナンダがその真実を知った時、彼はヴィッタールパントウにサフラン色の衣を脱ぎ、彼の妻の所に帰り、家族を養うように命じました。

ですから、ヴィッタールパントウは、彼を歓迎してくれたラクマーバーイーと再び一緒になりました。今度は、子どもが生まれました。最初は男の子で、ニヴリッティでした。3年後には次男のニャーネーシュワルが生まれました。それから、もう一人の男の子のソーパンが、そして最後に、女の子のムクターバーイーが生まれました。4人の美しい子どもたち。

しかし、その地域の正統派のブラーミンの司祭たちは、スワームとしての誓いを立てた者が所帯持ちの生活に戻ったことに憤慨しました。彼らは、ヴィッタールパントウがもうけた子どもたちを嫡出子とは認めず、彼の家族は正当な家族ではないと宣言したのです。アランディの町のブラーミンたちは、彼ら6人を軽蔑した態度で扱いました。ニヴリッティが、ブラーミンのカーストのヒンズー教の少年が、宗教的生活を始めることを示すための神聖なる糸の儀式を受ける時が来た時、ブラーミンの長は彼のことをこう言いました。「この者はブラーミンではない。これはサンニャーシンの息子である」

従って、ヴィッタールパントウの家族は、カースト制に属していない人々——確立された秩序の一部ではない人々——と見なされました。子どもたちは多くの欠乏に苦しみ、時には食べる物が無いこともありました。それでもなお、彼らは英知に富んでいました。父親は自分自身が学んだサンスクリット語と神聖なマントラや教典を彼らに教えました。

その結果として、ヴィッタールパントウの子どもたちはそれぞれ、悟りを開くよう運命づけられてこの世界に入ってきました。

ニャーネーシュワルは、『バガヴァッド・ギーター』についての彼の解説の中で、どのようにしてそのような子どもたちが生まれてくるのかについて書いています。『ニャーネーシュワリー』の第6章で、クリシュナ神は戦士アルジュナに、仮に悟りに到達するために努力するヨーギがその生涯の中ではそれに失敗したとしても、彼がしてきた努力は失われない、と説明しています。やがて、そのような人は高潔な家族の中に生まれ変わり、前世で得た知識を取り戻します。クリシュナは付け加えています。

彼の外見は小さく見えるかもしれないが、ちょうど太陽が昇る前に光が生じるように、彼の中には大いなる自己の知識の夜明けが現れる。²

これは、なぜニヤーネーシュワル自身も、彼の兄弟や妹も、とても若い時から光や英知を明らかに示したのかを説明しています。それぞれが前世でサーダカ、すなわち精神的探究者であり、過去に成し遂げたものを持ってこの世界に生まれてきたのです。

ニヤーネーシュワルの兄、ニヴリッティが 10 代だった時、彼はガヒニナートゥという名のグルから精神的な伝授を受け、ニヴリッティナートゥという名前を与えられました。その系譜が原初のシヴァにまで遡るナートゥの伝統のグルたちは、神聖な内なる力であるクンダリニー・シャクティを熟知していて、眠っているクンダリニーを目覚めさせるためのヨーガの実践を行いました。

とても短い時間で、ニヴリッティナートゥは前世から持ってきた自分の知識を取り戻して、完全に悟りに達しました。それからは彼自身が、ニヤーネーシュワルの内なる力も、ソーパンやムクターバーイーの力も目覚めさせ、自分の兄弟姉妹のグルとしての役目を果たす能力を持ちました。

しかしながら、この間に、彼らの両親は亡くなり、兄弟姉妹の身体的な苦難は増大しました。彼らが地域のブラーミンたちに保護を求めた時、まず初めに父親の罪を清めたという認定を得るために、パイタンの町の長老評議会に行くように言われました。若者たちは 100 マイル以上もの距離を歩いてパイタンに行きました。そこで彼らは、その精神的な学びによってブラーミンたちに感銘を与え、純粋であるという認定を与えられました。

² Jnaneshvari 6:450; Jnaneshwar's Gita, p.85.

帰路の旅で、彼らはネーヴァーサの町まで行き、そこにとどまることを決めました。その場所で、ニヴリッティナートゥはニヤーネーシュワルに『バガヴァッド・ギーター』の詩節をマラーティー語に翻訳し、教典の教育を受けていない人々が理解できる解説を書くことを命じました。

それは 1290 年のことで、ニヤーネーシュワルは 15 歳でした。ためらうことなく、彼はその偉大な仕事を始め、リズムカルな詩節を声に出して朗唱し、その間にサッチダーナンダ・バーバという名の男が彼の書記を務めました。

真に注目すべきことは、ニヤーネーシュワルがその仕事に取り掛かったことだけではなく、それを行なった方法でもあります。

ニヤーネーシュワルの執筆方法

ニヤーネーシュワルは、マハーラーシュトラの人々が自分たちの言語で聞くことのできなかった神聖な教えを、彼らに提供することに明らかに喜びを見いだしました——そして、若々しい活力を持ってそれを遂行しました。彼は書きました。

私の言語はマラーティー語ですが、私はこの仕事を容易に甘露にも勝る美しい言葉と方法で組み立てます。³

どのようにして若い詩聖はそれを成したのでしょ

うか。彼自身が説明しています。

私たちがグルの恩恵を得ているのなら、できないことは何なのだろうか。ニヤーナデーヴァは、私はそれを豊富に持っている、と言う。その恩恵の力の中で私は話す。私は言葉で形のないものに形を与え、感覚にそれらの知る力を超えたものを体験させる。⁴

³ Jnaneshvari 6:14; Jnaneshwar's Gita, p.66.

⁴ Jnaneshvari 6:35 – 36; Jnaneshwar's Gita, p. 68.

実際に、ニャーネーシュワルのマラーティー語を操る能力はとても優れていたもので、博識な学者たちはそれを説明する時に、熱意を抑えることができませんでした。例えば、ある学者、W.B. パトワルダン⁵は、ニャーネーシュワルが書いた『ニャーネーシュワリー』の詩節の表現方法を説明して、彼自身が熱狂的な感謝の気持ちと雄弁さでそうするように鼓舞されるのです。

『ニャーネーシュワリー』は、文学的な側面から言って、その暗喩や例示、直喩や類推的説明は大変優美で、大変美しく、大変詩的であり、その文体は明快で分かりやすく、その空想はとても豊かで、その修辞表現はとても楽しく、その想像の飛躍はとても気高く、その口調は荘厳であり、言葉の響きは耳に心地よく、着想はとても独創的で、その感性はとても純粹である…そのため読者は、単純に魅了され、その流れの上に歓喜に満たされて浮かび、そのリズムと心地よく調和した韻律に我を忘れ、ついに思考は消えて感謝の気持ちのみに満たされる。⁵

他方、マインドを静めている間さえも、ニャーネーシュワルは読者——あるいは、彼の時代に一般的にそうであったように聴き手——を、ニャーネーシュワル自身がそこから語る至高の自由と喜びの境地に触れられるように導きます。彼の偉大な注釈書の第 13 章でニャーネーシュワルがこの境地を喚起するやり方を見てみましょう。

さて、クリシュナとアルジュナの間の会話の物語をマラーティー語でオーヴィーの韻律で続けよう。

この物語を、愛の気持ち以上に美しい静寂の気持ちをもって語ろう。

これを美しいマラーティー語で語ろう、それは文学に彩りを添えるだろう、なぜならそれは甘露よりももっと甘いからだ。

⁵ R. D. Ranade, *Mysticism in Maharashtra: The Poet-Saints of Maharashtra* (Albany, NY: SUNY Press, 1983) pp. 36 – 37.

その涼しさは月に匹敵し、その感情の美しさは聖なる響きさえも超えるだろう。

それを聞けば、悪霊の心にでさえ清き流れが湧き出し、善き人は深い瞑想の喜びを体験するだろう。

その雄弁があふれ出し、全世界を『ギター』の意味で満たすだろう、そして全宇宙を喜びの天蓋で覆うだろう。

それは識別力のいかなる欠如も取り除き、耳とマインドの命は新たにされ、それを望む誰もが大きいなる自己の知識の宝庫を見いだすだろう。

目は至高の大きいなる真理を見、喜びの祝祭が幕を開け、世界は絶対なるものの知識の豊かさへと入っていくだろう。

私の聖なるグルであるニヴリッティの助けがあるので、このすべてのことは今起こり、私はそれをうまく述べるだろう。⁶

マハーラーシュトラ州の人々にとって、彼ら自身の言葉がそのような創意、情熱、技量、そして自由を持って語られるのを聞くのがどのようなものだったか、想像してみてください！ そして神聖な教えをそのようにして学ぶということがどのようなものだったか！

ニャーネーシュワリーの教え

言語自体の他にも、ニャーネーシュワルは彼のグルの命令に忠実に従って、一般大衆が彼らの日常の生活に照らして理解できるような言葉で神聖な教えを伝え、『バガヴァッド・ギター』の英知を一般大衆にも届くようにしました。例えば、ニャーネーシュワルが本物の知識を真に体現する人をどのように認識するかを、私たちに教えるやり方を見てみましょう。

⁶ Jnaneshvari 13:1149 – 57; Jnaneshwar's Gita, pp. 219 – 20.

この知識が体内に現れると、目はそれを知覚できる、なぜならそれは感覚器官の活動を通してそれ自体を表現するからだ。

春の訪れが木々のみずみずしさによって気づかれるのと同じように、その存在は認識されるだろう。

木の根元に水が注がれると、その効果は枝に生える葉に見られる。

土の柔らかさは、柔らかな植物の芽によって示される。人の高貴な振る舞いは育ちの良いことの証拠である。

人の親しい性質は、歓待の行為に表現される。そして、ただその人を見るだけで安らぎがもたらされるならば、私たちはその人を善き人と知るのだ。⁷

ニヤーネーシュワルが、知恵のある人とはどのように生きるか、どのように他者と交わるか、彼らを見て私たちがどのように感じるか、という観点から語っていることに注目してください。学術的な知識への参照は全くありません。ニヤーネーシュワルは、バーバ・ムクターナンダがかつて「真の人間」と呼んでいた種類の人を描写しているのです。⁸

さて、死という主題について、クリシュナ神がアルジュナに伝える英知を通して、ニヤーネーシュワルが読者と聴き手の心を和らげるやり方を見てみましょう。

私との結び付きをかつて体験し、心の中で私にしっかりとすすがる者は、私を崇敬し、私と一つになる。

死を迎える時にそのような人々が私を思い出し、私が彼らの所に来ることが必要ならば、私への献身の価値とは何だろうか。

⁷ Jñaneshvari 13:176 – 81; Jñaneshwar's Gita, p. 190.

⁸ Baba Muktananda often used this phrase to describe virtuous people. Following is one source: Swami Muktananda, *Mukteshwari* 2nd ed. (South Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1995) v.262 p.81.

気の毒な者が仮に苦悩の中で哀れにも助けに来てほしいと私を呼んだら、私は急いでその困難から彼を解き放たないだろうか。

私を信奉する者たちがこの同じ立場にあったなら、献身への切望を誰が感じるだろうか。だから、あなたたちは全くこのような疑いを持つべきではない。

おお、アルジュナよ、彼らが私に頼るたびにいつでも彼らの元に行くよう思い出すべきだという考えは、私には耐えられなかった。

信奉者に対して恩義があるから、私は彼らの死の床で彼らに仕えることによりその恩義に応えるのだ。

私の愛する信奉者たちが、身体を衰弱させていくその風を感じることがないように、私は自己実現という箱に彼らを納めよう。

さらに、その箱を私を想起させる涼しい影で覆い、そしてこのようにして、マインドの揺るぎなさを彼らにもたらそう。

従って、死の苦悩が私の人々に影響を与えることは決してなく、私は彼らを喜んで私自身の元に迎えよう。⁹

この慈愛に満ちた保証を思い出すことが、死に直面している人にもたらすことができる大きな安心感を考えてみてください。ニヤーネーシュワルの言葉が、その人を愛する人々にもたらすことができる安らぎも想像してみてください。これらは偉大な存在——恐れのない無さという祝福を与えながらこの世界を歩む人——からの心からの言葉なのです。

ニヤーネーシュワルのサマーディ

21 歳の時、聖人ナームデーヴと共にパンダルプールへと旅をし、そこで聖なる儀式を行った後、この世に来て行ふべきことを完遂したので、今やこの世を離れることを望んでいると、ニヤー

⁹ Jnaneshvari 8:124 – 32; Jnaneshwar's Gita, p.103.

ネーシュワルは友人に伝えました。生きたまま至高の大いなる意識に没入する、永遠のサマーディの境地に入ることにニヴリッティナートゥから許しを得ていると、ニャーネーシュワルは言いました。

もともとの故郷であるアランディに戻る聖人ニャーネーシュワルに、彼の兄弟や妹と共にナムデーヴは同行しました。そこで、一晩中神の名前をチャンティングした後、ニャーネーシュワルは彼のために準備された墓に入り、座って瞑想し、サマーディの境地へと入って行きました。

アランディにある彼の墓は、インドにおける巡礼の主要な場所の一つであり続けています。グルマーイもバーバも共に、シッダ・ヨーガの生徒たちを伴ってアランディを頻繁に訪れてきました。ニャーネーシュワルは今もまだそこに座って瞑想をしていると広く信じられており、彼のサマーディ霊廟(れいびょう)を訪れる多くの人たちは、彼がそこにまだ生きて存在している体験をしたと証言しています。

確かなことが一つあります。ニャーネーシュワルは、この世界に生きる人々に彼の祝福を与え続けます。彼の慈愛に満ちた言葉と悟りの教えは、それらを信奉し実践する人々をこれからも永遠に導き高めていくでしょう。

偉大な存在の心は、この世界とそこに住むもろもろの存在の幸福を今も願い続けています。ニャーネーシュワル・マハーラージは、『ニャーネーシュワリー』の結びで、彼の祈りである「パサーヤダーン」によって世界に祝福を与えています。「パサーヤダーン」はこう言います。

宇宙の大いなる自己がこの言葉のささげものに喜び、その恩恵を私に授けますように。
罪深い人がもはや邪悪な行いに身を投じることなく、善い行いへの彼らの望みが増しますように、そして、生きとし生けるものが互いに調和して生きますように。

罪の暗闇が消え、正義の太陽が昇るのを世界が見ますように、そして、あらゆる生き物の望みがかないますように。

すべての人が神に敬愛をささげる聖人たちと共にあり、聖人たちが彼らに祝福を降り注ぎますように。

聖人たちは願いをかなえる木で満ちた歩く庭であり、願いをかなえる宝石の生ける村である。彼らの言葉は甘露の大海のようである。

彼らは汚れのない月であり、熱のない太陽である。これらの聖人たちがすべての人々の友でありますように。

すべての世界のすべての存在が喜びで満たされますように、そして、彼らが神を永遠に敬愛しますように。

この本がまさに自分の人生そのものであるというすべての人が、現世と来世での成功を祝福されますように。

そして、ニヴリッティナートゥ、偉大なる師は、この祝福が授けられるだろうと言った。これはニャーネーシュワルに大きな喜びをもたらした。¹⁰

7世紀以上も前からもたらされた彼の心からの言葉と豊かな教えによって、ニャーネーシュワルはこの世界中の精神的探究者たちを勇気づけ、鼓舞し、高めてきました。そしてこれからもそうし続けるのです。



© 2019 SYDA Foundation®. 著作権所有。

¹⁰ Jnaneshvari 18:1772-1780.